

4 小学校家庭科における年間授業計画例

1 新学習指導要領と消費者教育

1 新学習指導要領から読みとる、これからの消費者教育(小学校家庭科)

新学習指導要領では、「生きる力」の育成を目指して、①知識、技能の確実な習得、②思考力、判断力、表現力等の育成、③学びに向かう力、人間性の涵養^{かんよう}の3つを重視しています。この3つの柱を受けて、各教科等では、教科等の特質に応じて「教科の目標」「学年ごとの目標」「内容」等に、育成する資質・能力が示されています。

小学校家庭科の目標は前文に、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することを目指す。」とあります(具体目標の3つは、P13参照)。家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫する力の育成が求められます。

持続可能な社会の構築については、今改訂で初めて設けられた総則の前文にも、「自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながらさまざまな社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」と述べられています。

これからの消費者教育は、消費生活が環境に与える影響を考え、環境に配慮した生活を工夫し、実践できる力を育てることが重要になります。

2 新学習指導要領で充実された消費者教育の内容(小学校家庭科)

家庭科の内容は、従来はA～Dの4つで構成されていましたが、右のようにA～Cの3つの枠組みとなりました。

小学校家庭科においては、従来から、「社会において主体的に生きる消費者を育てる」視点から、「物や金銭の使い方と買物」「環境に配慮した生活の工夫」の2項目を指導してきました。

今改訂では、持続可能な社会の構築に対応する観点から、自立した消費者を育成するために、小学校と中学校の内容の系統性を重視し、消費者教育に関する内容の一層の充実を図っています。

具体的には「買物の仕組みや消費者の役割」に関する内容を新設するとともに、物の購入に当たっては、「必要な情報の収集・整理と活用」が追加されました。身近な物の購入に当たって、目的に合った品質の良い物を選ぶために、さまざまな観点から情報を集め、整理して、比較検討し、選択できるようにします。小学校では、主体的に考える態度と意思決定力の育成が重要になります。

また、買物では、新たに「売買契約の基礎について触れること」と示されました。消費者としての自覚を持たせ、適切な消費行動をとる必要があることに気付かせます。振り返りを大切にして、課題を発見し、よりよい解決を追究する態度の育成を図ります。

家庭科 3つの内容

- A 家族・家庭生活
- B 衣食住の生活
- C 消費生活・環境

2 指導の工夫

1 課題解決を目指した実践的な学習の工夫

小学校家庭科では、これまでも課題解決力を育成する学習が重視されてきました。新学習指導要領では、さらなる充実が求められており、A～Cの各内容の前文には、「課題をもって〇〇(各内容で学ぶ事項)を考え、工夫する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。」と共通に示されています。子供が関心をもって自分の生活を見つめ、問題を発見してよりよく解決できるようにするため、身近な生活から、具体的実践的な学習活動を工夫することが大切です。

2 主体的・対話的で深い学びの実現

子供が自分の生活体験と関連付けて問題を考え、計画的に学習の見通しを立てたり、学習を振り返ったりして、次時の学習につなげる「主体的な学び」、日常生活の中から問題を見いだしてさまざまな解決方法を考え、他者と意見交流して新たな考えに気付いたり、自分の考えをより適切なものとしたりする「対話的な学び」、新たな問いを見出し、課題追究、課題解決を行う探究の過程に取り組む「深い学び」が実現できる学習を重視します。特に、消費生活においては、家族構成や家庭の状況によって選択は異なります。考えを交流して多様性を認め合い、協働して問題解決に取り組めるような学習活動を計画します。

3 他教科との関連や中学校との系統性の重視

小学校では、家庭科だけでなく生活科、社会科、道徳、総合的な学習の時間等、他教科等においても、消費者教育の視点が位置付けられている内容があります。各教科等との関連を図って効果的に学習できるようにすることが大切です。例えば、社会科では、以下の内容が例に挙げられます。

社会科の例

学 年	内 容
第3学年	地域の産業と消費生活、地域の生産や消費者の願いを踏まえた販売の仕事
第4学年	飲料水、電気、ガス、水道(節電や節水)、廃棄物の処理(ごみの減量、資源の有効利用)、
第5学年	農業、水産業における食料生産、消費者や生産者の立場、安全性の確保、環境への負荷、産業と情報 など

また、中学校の内容「C 消費生活・環境」との繋がりに留意します。

3 本Web版消費者教育読本の活用

本Web版読本は、その1「お金って、いったいどこから来るんだろう?」、その2「生活するためには、ぜ～んぶお金が必要だよ」、その3「お給料の使いみちを考えてみよう!」の3つのステージで構成されています。その1では、労働と金銭、その2では、生活を支える、生活に必要な金銭、その3では1か月の生活費について、どれも、家族の会話とともにWebで疑似体験します。まとめて一度に行うことができるように設計されていますが、他の内容と関連を図って学習することが効果的であることから、2年間にわたって繰り返し活用できるようになっています(「P.13 **3** 参照」)。

4 指導計画案

本Web版読本を活用した指導計画の構想に当たって、家庭科の3つの具体目標を確認します。

1 小学校家庭科の具体目標

- (1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) 家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

上の3つは、新学習指導要領に示されている育成すべき3つの柱に沿ったものであり、(1)は、知識・技能、(2)は、思考力・判断力・表現力、(3)は、学びに向かう力、人間力について、それぞれ記述したものです。

2 題材の指導計画案

消費者教育には1つの決まった正解があるわけではありません。

各学校の子供の実態を踏まえ、上記1の3つを育成する資質・能力を明らかにして計画します。

Web版読本	大題材	小題材
お金って、いったいどこから来るんだろう？	家庭の収入と家族の仕事 働いて得る金銭といるいるな職業	どのようにしてお金を手に入れているのか考えよう 働くことの大変さとお金の大切さを考えよう (道徳 各学年 勤労、公共の精神との関連)
生活するためには、ぜ～んぶお金が必要だよ	わたしたちの生活に必要な金銭	どんなことにお金を使っているか調べよう お金が生活を支えていることを確かめよう
お給料の使いみちを考えてみよう！	家族の1か月の生活費	毎月決まって必要なお金はどんなものか考えよう 生活するために必要なお金を調べよう 必要性を考え計画的にお金を使おう

3 内容「C 消費生活・環境」における2年間を見通した題材配列と指導内容(例)

学 年	第5学年			第6学年			
	A C	ABC	BC	B	B	AB	AB
内 容	家庭の収入と家族の仕事	おいしいね 毎日の食事	物を生かして 住みやすく	見直そう食事と生活のリズム	工夫しよう さわやかな生活	思いを形に。生活を豊かにする物の製作	まかせてね 今日の食事
時 間	5	11	8	12	9	10	14
	・お金の大切さを	・家族のための	・身の回りの物や	・おかずの実習	・本服の選び方、	・作品に合う布を	・加工食品の選

※紙面の関係で途中まで掲載しています。

一覧表は、Web上のファイル「内容「C 消費生活・環境」における2年間を見通した題材配列と指導内容(例)」で見ることができます。

ダウンロード先 https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/center/kyoiku/web/shou03/documents/kyouzai/huroku/c_shouhi_kankyo.pdf